

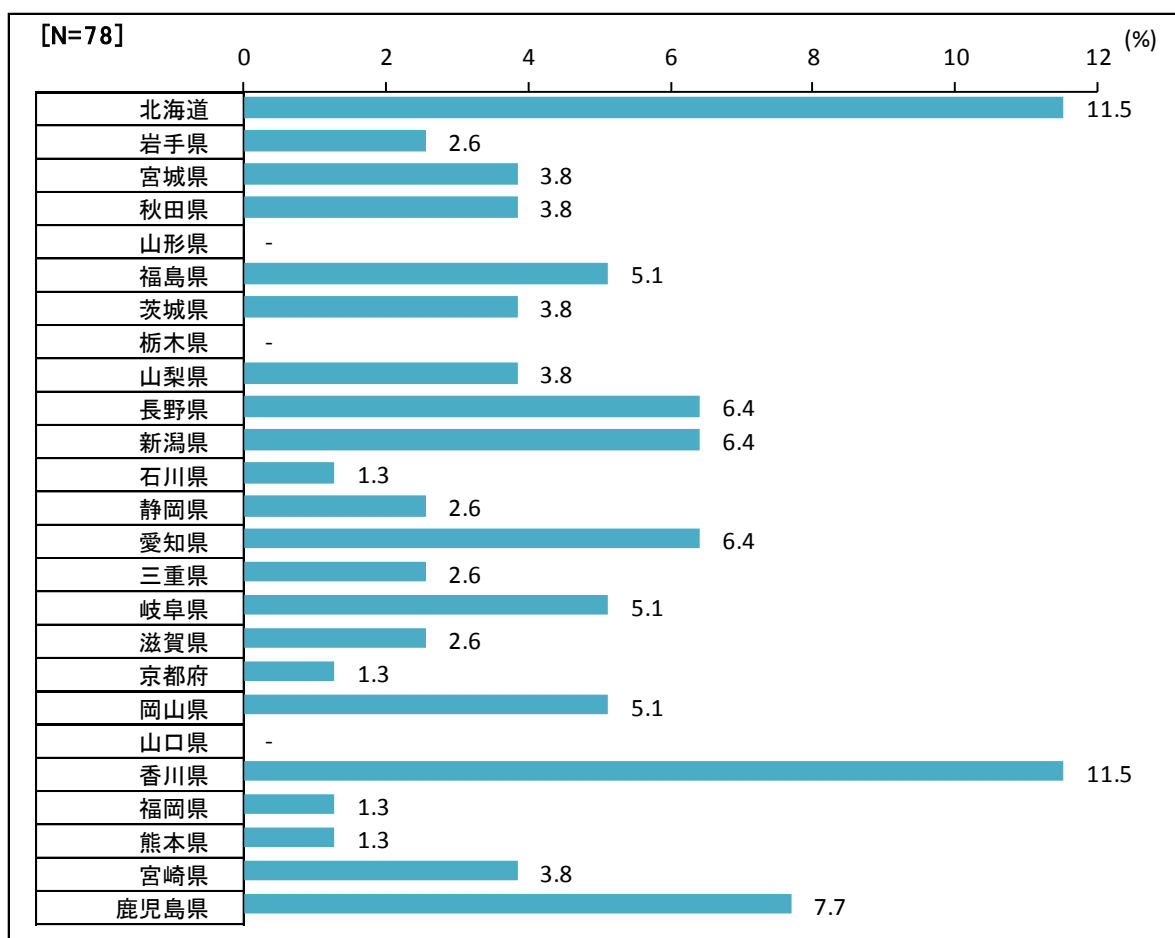
4. 調査結果

1. 回答した単位団の属性

(1) 所在地（都道府県別）

調査に回答した単位団（以下、単位団）の所在地を都道府県別にみると、「北海道」、「香川県」がそれぞれ11.5%である（図表 1-1）。また、「鹿児島県」が7.7%、「長野県」「新潟県」「愛知県」がそれぞれ6.4%となっている。

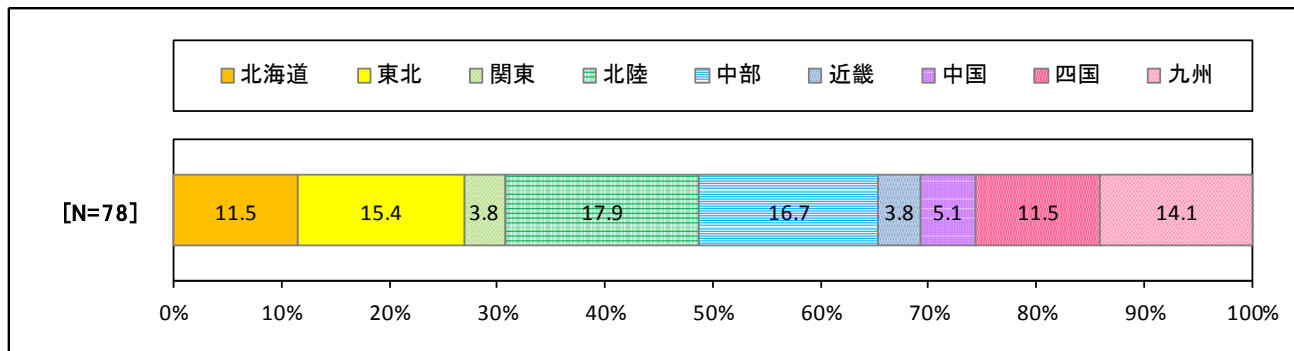
図表 1-1 単位団の所在地分布



(2) 所在地（地域ブロック別）

回答した単位団の所在地を地域ブロック別にみると、「北陸」が 17.9%、「中部」が 16.7%、「東北」が 15.4%、「九州」が 14.1%、「北海道」と「四国」がそれぞれ 11.5%などである(図表 1-2)。

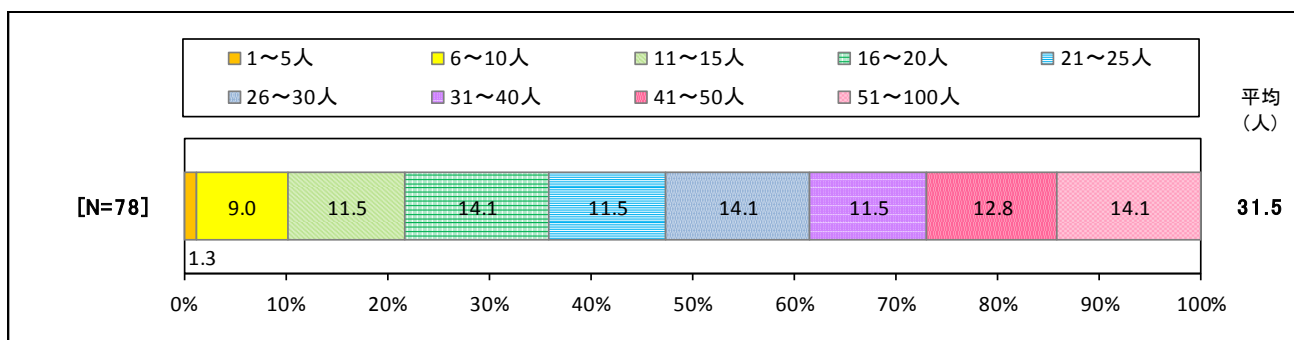
図表 1-2 単位団の所在地分布(地域ブロック別)



(3) 団員数

回答した単位団の団員数をみると、25 人以下の単位団が半数弱を占め、平均は 31.5 人である(図表 1-3)。

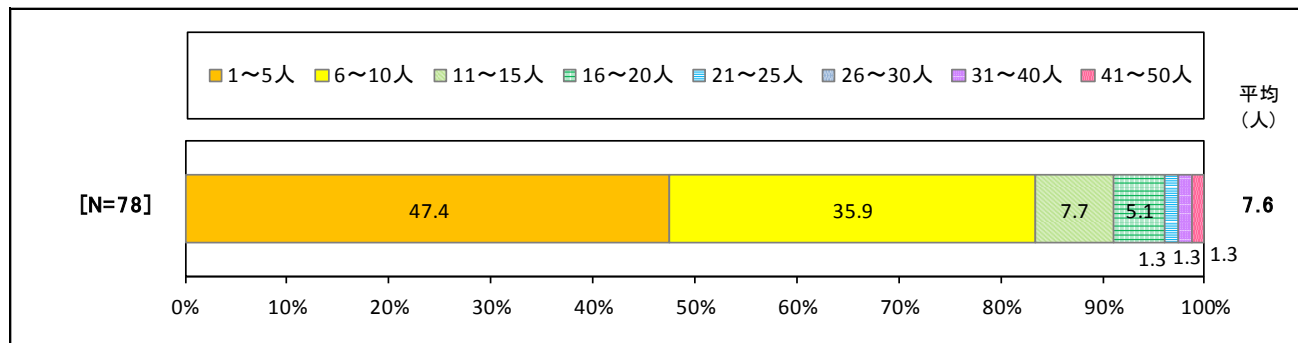
図表 1-3 単位団の団員数



(4) 登録指導者数

回答した単位団の登録指導者数をみると、「1～5人」(47.4%)が最も多く半数を占める。次いで、「6～10人」が35.9%と続く(図表 1-4)。平均では7.6人である。

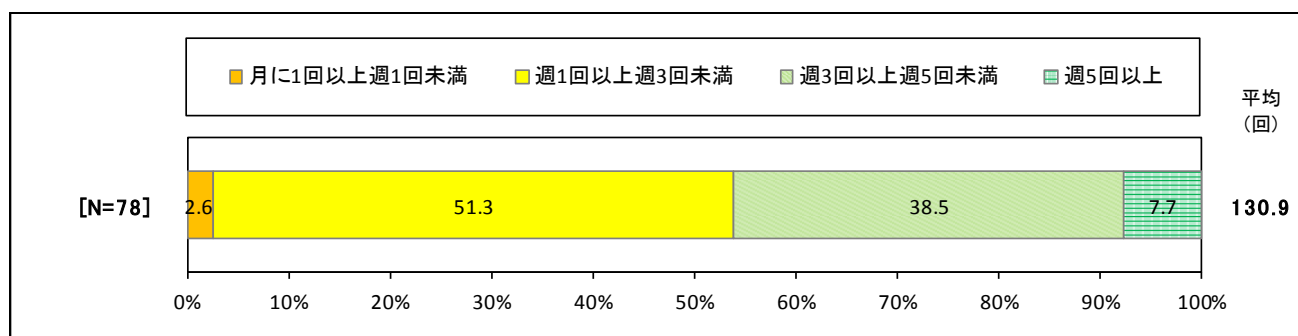
図表 1-4 単位団の登録指導者数



(5) 活動頻度

回答した単位団の活動頻度をみると、「週1回以上週3回未満」が51.3%と最も多く半数を占める。(図表 1-5)。次いで、「週3回以上週5回未満」38.5%、「週5回以上」7.7%、「月に1回以上週1回未満」2.6%であった。年間の活動頻度の平均は、130.9回(週に2.5回程度)である。

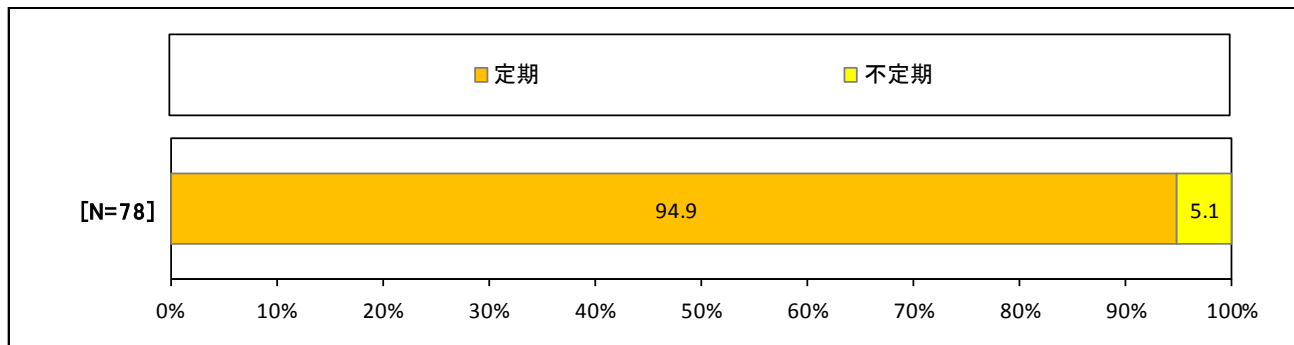
図表 1-5 単位団の活動頻度



(6) 活動状況

単位団の活動状況を見ると、「定期」(94.9%)が9割以上を占め、「不定期」(5.1%)を大きく上回っている(図表1-6)。

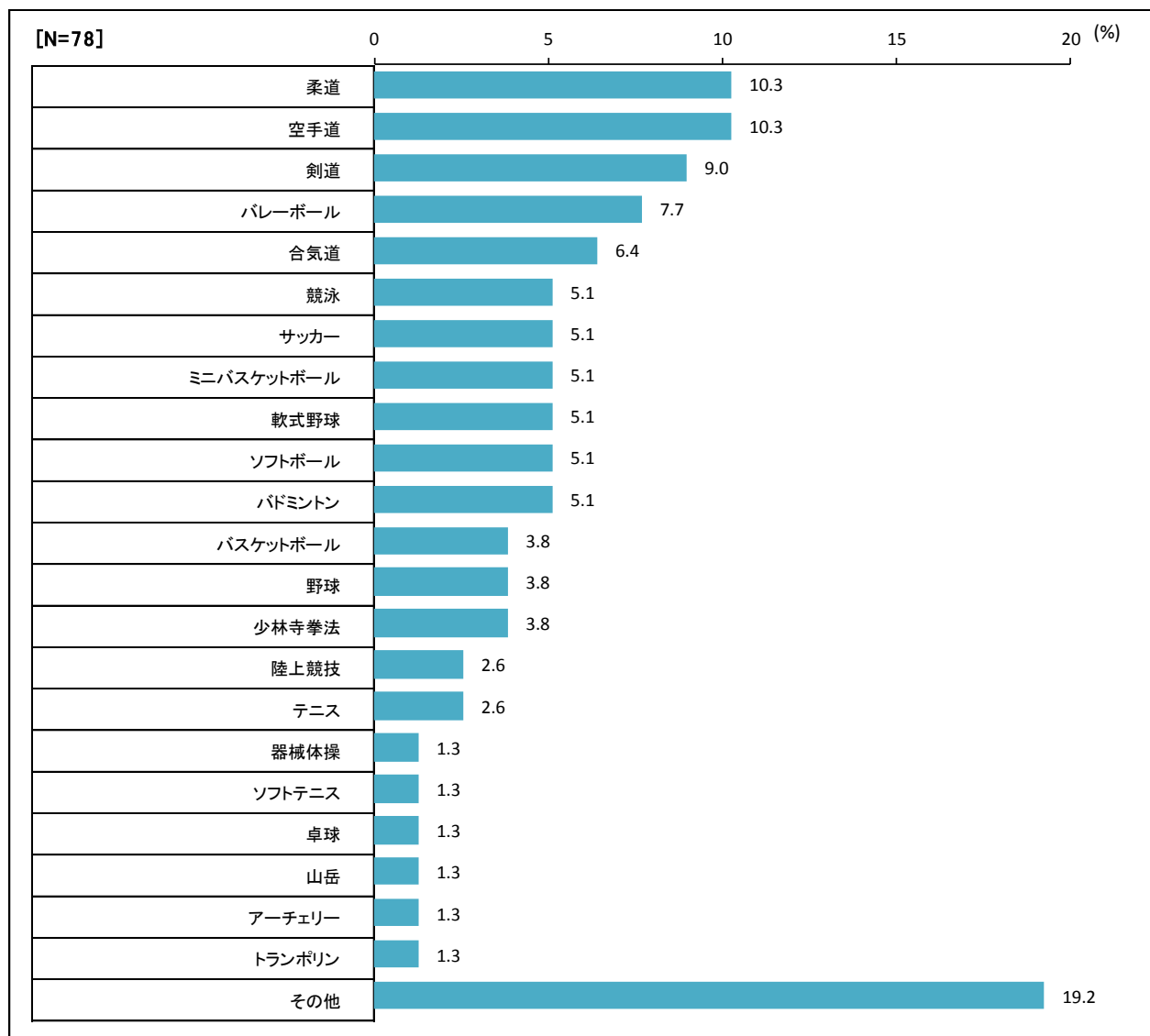
図表 1-6 単位団の活動状況



(7) 主な活動種目

単位団の主な活動種目を最大 2 種目までたずねたところ、「柔道」および「空手道」が 10.3%と最も多い(図表 1-7)。次いで、「剣道」(9.0%)、「バレーボール」(7.7%)、「合気道」(6.4%)と続く。「その他」(19.2%)では、ボランティア活動や清掃活動などがあげられている。

図表 1-7 単位団の主な活動種目(主な 2 種目)



注) 3つ以上の活動種目がある場合は、よく活動する2種目を回答

(8) 障がいのある子どもが主な対象の少年団

すべての単位団に、障がいのある子どもを主な対象としているかをたずねたところ、「主に対象としている」と回答した単位団は 1 団(1.3%)のみであり、大多数は「主な対象ではないが、障がいのある子どもも参加している」(98.7%)という回答であった(図表 1-8)。

なお、主に対象としている 1 団に対し子どもの参加状況をたずねたところ、障がいのある子どもだけでなく健全児も参加していると回答した。

この単位団に設立経緯をたずねたところ、日独スポーツ少年団同時交流で渡独し、「ドイツにおける障がいのある子どものスポーツ活動」をテーマとした団長プログラムを視察したことをきっかけに、障がいのある子どもを対象とする「プレイスクール」を開催したことが設立経緯としてあげられている。

図表 1-8 障がいのある子どもが主な対象の少年団

